

第13章 附属図書館



現在の附属図書館

第1節 あゆみと現況

1. 図書館の発足

昭和24年5月31日熊本大学設置に伴い、熊本医科大学、第五高等学校、熊本師範学校男子部・女子部、熊本青年師範学校、熊本薬学専門学校及び熊本工業専門学校の各附属図書館(室)を統合し、熊本大学附属図書館として発足したが、その中央館としての機能は旧第五高等学校の図書館が果たすことになった。それというのも大学が発足すると、法文、理の両学部は、2年間の教養課程を受け持たねばならず、そのためには学生が共通に閲覧できる総合図書館の設置が必要であった。そこで旧五高いらいの図書課長であった法文学部の松本雅明助教授は、当時の各図書館長及び図書課長とはかり、附属図書館設置の重要性を力説し、昭和24年大学発足当初に「図書館長・図書課長協議委員会」を結成した。その後数次の会議を開き、館長・課長会議では本館の必要性が痛感されたが、各学部ではそれぞれ図書館があり、館長または課長・職員がいるので現状で事足りるとし、図書館全体についての理解はほとんど示されなかった。そこで旧五高の図書館を本館として教養課程の学生に開放し、各旧学制の図書館は分館として存置するという方針が議決され、それが成文化されたのが「熊本大学附属図書館機構」であり、そのような構想のもとに全館的見地からの人事の発令が行なわれている。即ち、昭和24年7月1日倉岡亮昌氏が事務長に任命され、同日付けで庶務係長、司書係長、教育学部・医学部・薬学部及び工学部の各分館係長が任命されている。次いで昭和25年2月21日に原田敏明(法文学部教授)が附属図書館長に任命され、また医学部分館長は昭和24年7月31日に、教育学部、薬学部及び工学部の各分館長は昭和25年6月7日に発令されて、図書館全館の機構は一応整えられた。このように大学発足当時すでに現在のような全学的見地からの機構が制定されていたが、規則上は、昭和25年3月22日協議委員会議決による先述の「熊本大学附属図書館機構」が初めである。これを受けて同年6月15日に「熊本大学附属図書館規程」が制定された。これは第一章総則、第二章機構、第三章事務分掌、第四章図書管理(閲覧規程)より成り、現在の図書館諸規程の根源をなすものである。これによると、すでに「図書館評議会」「図書館委員会」の設置が定められており、又分館は教育、医、薬、工学部分館とすると規定されている。ただし当時の分館係長は学部兼務の辞令が出されており、又図書館運営費の学内負担分などからみて、なお制度的には流動した状態であった。

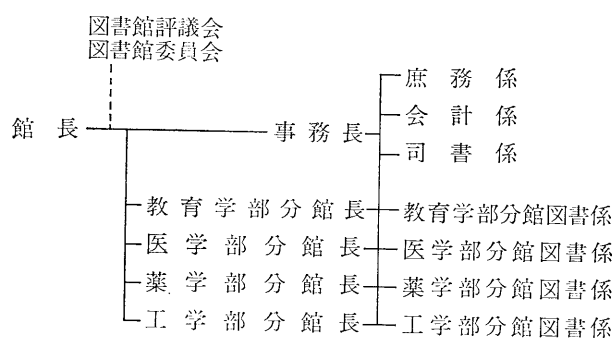
当時の施設は、教育学部分館は京町と内坪井町に、本館とその他の分館は黒髪北、本荘、大江及び黒髪南の各地区に所在し、それぞれ管理運営の緒についていた。

なお発足当時(昭和24年)の蔵書は193,588冊である。

2. 機構の変遷

新学制の下に発足した図書館の機構は、制度的には、先述の「熊本大学附属図書館規程」（昭和25年6月15日）の制定に始まるが、附属図書館の編成を中央図書館及び分館とし、それぞれの機能と運営とを全学的立場から設定しようとするいわゆる近代化図書館構想の端緒が、本学附属図書館の発足時に見られるのは、当時新学制下での図書館行政として文部省が意図したものである。（松本雅明法文学部教授，原田敏明初代図書館長談）。文部省は2年後の昭和26年にこのような基本施策と関連して、「国立大学図書館改善研究会」を正式に発足させている。

先述の本学附属図書館規程による管理事務組織は次の通りである。



ここで「図書館評議会」は、学長，図書館長，各学部長，事務局長，学生部長，教養部主事，附属病院長及び研究所長をもって構成され，図書館の運営に関する重要事項を審議することとなっている。

「図書館委員会」は，館長，分館長，委員（分館のない学部，教養部より各1名）及び幹事（文科系，理科系各1名）をもって構成され，図書館と各学部との緊密な連絡と図書館運営に関する事項を審議することとなっている。このように組織機構そのものは，現行のものと大差なく，全国に先んじて中央館システムが採用されたことは，本学の附属図書館の特色であろう。

昭和25年に制定された規程は昭和29年9月1日に改正された。その主な点は，事務組織の改正で，庶務係，会計係，司書係は管理係，整理係，運用係となった。更に昭和35年2月25日に「附属図書館規程」は大幅に改正され，新たに「附属図書館協議会規則」「附属図書館長選考規則」「附属図書館事務分掌規則」「附属図書館資料閲覧規則」が制定され，又同年5月30日に「附属図書館委員会規則」が制定され，ここに図書館の組織・機構は一段と整備充実されるに至った。

なお同年6月には教育学部分館の本館併合に伴い新たに参考係が発足している。昭和38年5月管理係は総務係と改称され，整理係は受入係と目録係に，医学部分館図書係は整理係と運用係にそれぞれ分離されたが，昭和54年4月事務組織が全面的に改組され，従来の事務長制は事

務部長制に改められ、整理課（総務係、受入係、目録係）及び閲覧課（閲覧係、参考係、学術雑誌係）が置かれた。なお工学部分室図書系の業務は整理課又は閲覧課の関係の係でそれぞれ分担することとなり、分室図書係は閲覧課学術雑誌係に改組され今日に至っている。

昭和25年以降昭和54年現在に至る附属図書館職員数の変遷を示すと第1表のとおりである。

第1表 附属図書館職員数

年 度 別		25	30	35	40	45	50	54
館 別	定 員	10	10	13	23	19	18	21
	非常勤			1	4	6	8	12
教育学部分館	定 員	7	5	5				
	非常勤							
医学部分館	定 員	6	4	4	6	6	6	5
	非常勤					2	2	4
薬学部分館	定 員	2	2	2	2	2	1	1
	非常勤						2	2
工学部分室	定 員	4	3	3	2	3	3	
	非常勤					2	2	(2)
計	定 員	29	24	27	33	30	28	27
	非常勤			1	4	10	14	18

() 書は本館の内数

大学が整備、拡充されるに伴って、図書館資料も急速に増え、又業務内容も拡張されていった。この表からも一部窺い知ることができるが、図書館職員数もそれに伴って増員されていくが、昭和42年以降数次の定員削減により昭和50年度において約20%減、即ち全国の同一規模図書館の定員からみて最低数となり、結局はそれを非常勤職員で補なう形となっている。即ち非常勤職員の全職員数に占める割合は実に40%に及んでいる。昭和50年参考係員の定員1人の増員があったが、その後、定員削減があったため、図書館全体としては実質的にはプラスになっていない。少なくとも、同一規模図書館の水準までの定員の確保が望まれる。

3. 施設・設備の変遷

本学の附属図書館を構成する本館及び分館の前身については、すでに述べたところであるが、大学発足当時の施設の概要は第2表の通りである。

このうち京町及び内坪井町にあった教育学部分館は、教育学部の黒髪北地区への移転に伴い、昭和35年6月本館に併合された。また工学部分館は、同年の規則改正により工学部分室と改称している。医学部分館には医学部のほか、体質医学研究所、医学部附属病院、医学部附属看護学校及び医学部附属助産婦学校を含むことが規定されている。従って現在では黒髪北地区に本館、本荘地区に医学部分館、大江地区に薬学部分館、黒髪南地区に工学部分室があり、い

第2表 位置及び施設

名 称	所 在 地	建 物 面 積 (㎡)						座 席 数		取扱図書 の 部 局 名
		書 庫	学 生 閲覧室	教 官 閲覧室	事務室	その他	計	学 生 閲覧室	教 官 閲覧室	
本 館	熊 本 市	333.24	149.85	75.00	66.60	16.65	641.34	64	16	法文・理事 学部・事務 局
教育学部 分館	京 " 町	163.17	186.48		69.93	13.32	432.90			教育学部
教育学部 坪井分館	" 内坪井町	83.25	79.92		16.65	3.33	183.15			"
医学部 分館	" 本 庄 町	389.61	133.20	53.28	79.92	339.66	995.67	64	17	医学部・ 体研・附 属病院
薬学部 分館	" 大 江 町	199.8	146.52		19.98	13.32	379.62			薬 学 部
工学部 分館	" 黒 髪 町	306.36	99.90		79.92	43.29	529.47			工 学 部
計		1,475.43	795.87	128.28	333.00	429.57	3,162.15			

ずれも教育・研究図書館の性格を併せもち、本館（総合）を軸として、連絡調整のある所謂“分散管理方式”運営が行なわれている。以下各館・室個々の沿革について概略を述べる。

本 館：附属図書館本館、即ち中央図書館は、旧第五高等学校の図書館の蔵書・施設・設備を受け継ぎ、それを母体として発足したが、その後7年を経て本館蔵書数（90,536冊 昭和30年5月現在）はほぼ30%の増加を示し、又逐次刊行物類も著しく増加し、古文書、漢典籍類の特殊文庫群を併せて、書庫・閲覧室等は狭隘をつげた。昭和32年2月熊本大学期成会の寄附により、鉄筋コンクリート造3階建（第1期工事、工費21,800千円）の新館（管理部閲覧室等延1,201㎡）が竣工し、同年4月に移転・開館している。

当時黒髪キャンパスは旧学制時代の建物と大学発足時の木造建築のみで、図書館は唯一の新営鉄筋コンクリート造りであったことから、昭和35年10月22日天皇・皇后両陛下が本学に行幸啓されるにあたって、学内での学術研究の奏上場所として図書館が選ばれた。

管理・利用部門のみの新館にひきつづき、同じく期成会の寄附による書庫五層（第二期工事、工費14,700千円 延面積1,287㎡）が昭和36年8月に完成した。当初計画の4分の3はなお残されたが、予定地にあった旧五高の建物が国の重要文化財に指定されたため撤去することができず、その後の増築計画は、中断され、以来10数年を経て第4項に述べるよう

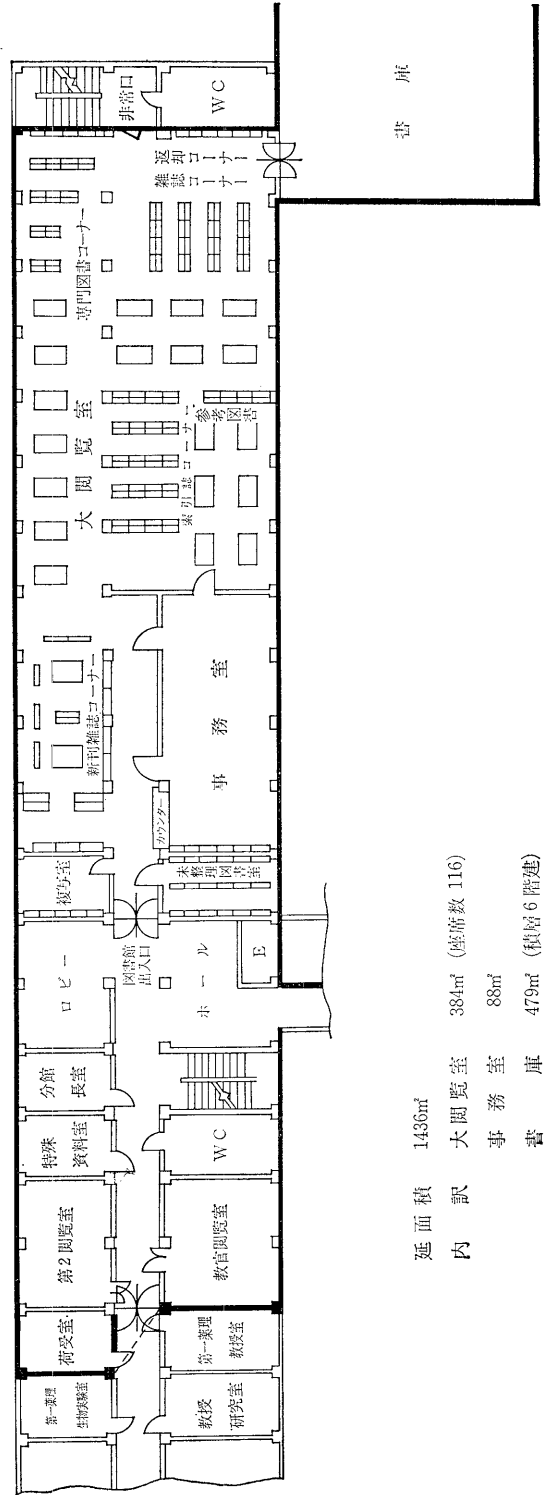
に、昭和48年現本館の新営に移行している。なお新館移転に伴い、旧館の管理・利用部門の建物は教養部の研究室として改造されたが、書庫は各分館・分室及び各研究室に収蔵しきれない利用頻度の低い図書の保存書庫として現在使用している。

医学部分館：発足当初は医学部附属病院内にあり、かつて熊本医科大学附属図書館（山崎記



行 幸 啓

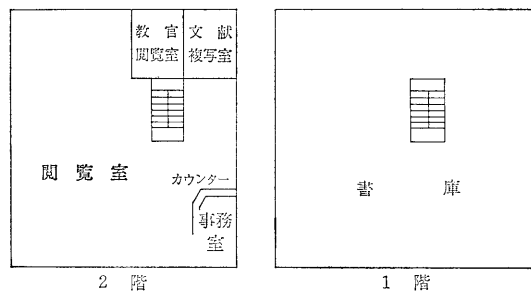
第1図 医学部分館平面図



念図書館：医学部通史参照）として昭和6年に設けられたものである。昭和36年3月現在地の医学部・管理棟2階の一部に併設され延面積1,436m²となった。昭和44年3月書庫積層3階を6層とし、また昭和50年11月より昭和51年3月にわたって増改築が行なわれ今日に至っている。増改築後の分館平面図を第1図に示す。

薬学部分館：発足時熊本薬学専門学校附属図書室より移行したが、昭和41年8月薬学部事務棟を改築し、閲覧室79m²、事務室40m²が移転している。更に昭和45年4月には薬学部の研究棟に併設の形で新築・移転し今日に至っている。1階（196m²）は書庫で、2階（196m²）が第2図のようになっている。

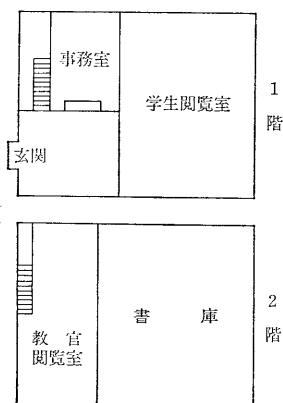
第2図 薬学部分館平面図（2階）



延面積	392m ²
内 訳	
読 覧 室	155m ² （座席数40）
事 務 室	19m ²
書 庫	196m ²

工学部分室：先に触れたように附属図書館発足時の工学部分館で、熊本工業専門学校図書室（鉄筋コンクリート平家建530m²）から現在の事務局3階施設部の位置に移転、その後昭和38年に現在の場所に移転した。（第3図）本館、各分館はそれぞれ新築されているが、工学部分室のみは古い施設を使用し、設備も不十分な状態であり改善のための措置が望まれる。

第3図 工 学 部 分 室 平 面 図



延面積	403m ²
内 訳	
読 覧 室	94m ² （座席数40）
事 務 室	30m ²
書 庫	141m ²

4. 本館の新営

既に前項で述べたように旧本館の増築が中断されたあと、昭和47年3月（加瀬佳年館長）に至ってようやく現在地に附属図書館本館の新営が行なわれることとなり、翌48年1月に竣工、同年4月に開館したものである。この本館は南・北黒髪地区のほぼ中央即ち教養部と学生部との中間に位置しており、近代図書館として相応しい施設であることは、今日までの利用状況から見て明らかであるが、このことは、その新営に当って周到、綿密な努力を傾注した加瀬館長始め関係者の力に負う所が大である。

建面積1,837m²、延面積6,264m²の鉄筋コンクリート造りで地下1階、地上2階よりなる。（総工費282,880千円）地下1階の書庫部分は2層に分け、建築当時は書庫第1層のみで、書庫第2層は将来の拡張部分にしていたが、昭和51年度に書庫第2層836m²の書架が整備され使用可能となった。館内・配置図（1、2階）を第4図—1に、同配置図（地階、中地階）を第4図—2にそれぞれ示す。

施設の延面積内訳は第3表のとおりである。

第3表 延 面 積 単位 m²

施設区分	地階	中地階	1階	2階	屋上	計
利用関係		235	1,047	1,205		2,487
収蔵関係	1,072	836				1,908
管理関係その他	663	19	679	465	43	1,869
計	1,735	1,090	1,726	1,670	43	6,264

また主要室別面積及び閲覧座席数は第4表のとおりである。

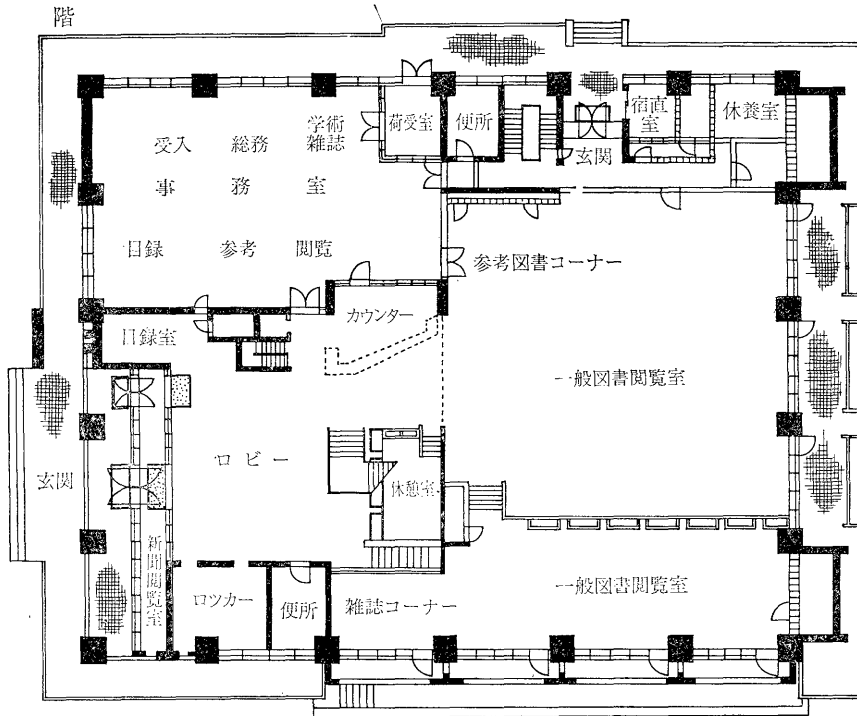
第4表 主要室別面積及び閲覧座席数

階	室名	面積 (m ²)	座席数 (席)	階	室名	面積 (m ²)	座席数 (席)
地階	書庫	1,072	8	2階	指定図書閲覧室	472	122
	機械電気室	321			研究者閲覧室	226	32
	情報管理室	85			教官研究室	42	15
	印刷複写室	74			図書館学資料室	42	15
	消毒室	29			A・V・ブース	20	10
中地階	自由閲覧室	235	72	1階	学生タイプ室	21	5
	書庫	863	8		視聴覚室	153	60
1階	一般図書閲覧室	743	146		館長室	60	
	新聞閲覧室	18			事務長室	25	
	目録室	30			事務室	75	
	休憩室	33			会議室	113	
	ロッカー室	36					
階	事務室	381					

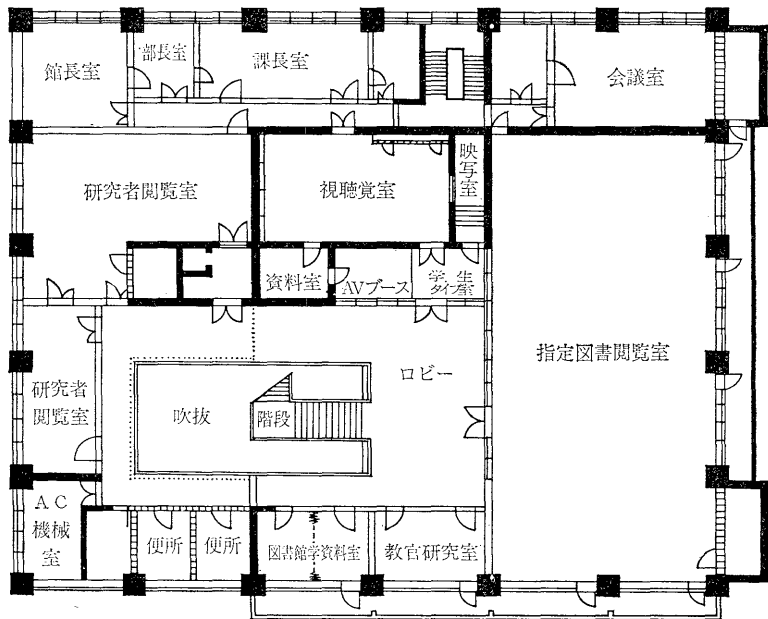
なお書庫第1層、第2層ともに、第4図—1のとおり、一部を仕切って、貴重書庫とし、主に後述の特殊文庫群を収蔵している。又書庫第1層の地下には浸水の災害に備えて容量15噸の受水槽計80箇が設けられている。

第4図-1 本館館内配置図

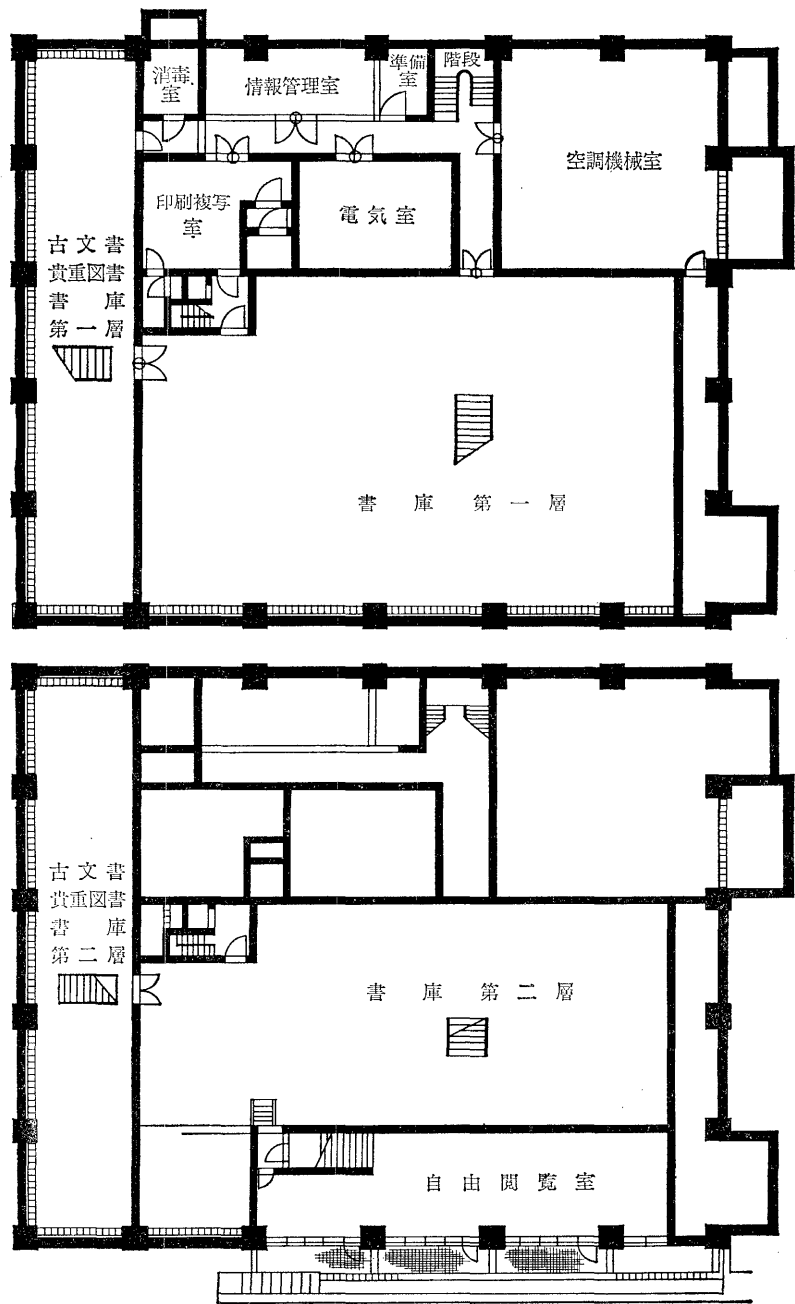
1 階



2 階



地 階



5. 経 理 状 況

図書館資料費：学生用図書購入費のあり方は、附属図書館の機能、即ち全学生の学習及び教養涵養の場としての機能を左右するものであるが、昭和44年度までを例にとると、その充足に苦悩する実情が明らかである。教養課程の学生を対象とした指定図書制度は、昭和38年度に発足した。昭和41・42年度の文部省よりの予算配付（計 878 万円）で一時急速に充実したが、以後教養部よりの移算費（年間20万円）のみとなる。学生用図書購入費もまた教養部よりの移算費（年間60万円）によるのみであり、参考図書購入費は図書館維持費（年間20万円）及び熊本大学振興会よりの数度の寄附（計 300 万円）に俟ち、辛うじて昭和44年度までの充足が行なわれている。もともと学生用図書購入費は、学生当積算校費からの配分経費による全学的な購入費の運用計画が必要である。昭和44年5月工学部教授福井武弘が館長に就任後、将来にわたっての図書購入の収書基準の策定に熱心にとりくみ、図書館委員会の各委員の協力もあって、昭和45年度からは現行のように、各学部、教養部から一定比率により共通経費として供出されることになった。その収書基準は次のとおりである。指定図書：教養課程8科目について、1科目あたり2種、20人に1冊（これは文部省基準の40%となる）。学生図書：入学定員1人当り1冊。参考図書：大学図書館施設計画要項による最低基準5000冊（昭和45年よりの10ヶ年計

第5表 図 書 購 入 費 （単位：千円）

年 度 別 館 別		25	30	35	40	45	50	53
本 館	図 書 誌				13,143	27,983	50,511	88,791
	雑 誌				6,554	18,359	37,569	42,276
	計	1,637	4,699	6,468	19,697	46,342	88,080	131,067
教 育 分 館	図 書 誌			—	—	—	—	—
	雑 誌			—	—	—	—	—
	計	598	2,019	—	—	—	—	—
医 分 館	図 書 誌				7,458	7,651	12,480	11,968
	雑 誌				6,676	18,641	30,634	35,266
	計	868	4,132	9,147	14,134	26,292	43,114	47,234
薬 分 館	図 書 誌				701	1,437	2,788	3,905
	雑 誌				803	2,165	4,706	5,430
	計	252	351	800	1,504	3,602	7,494	9,335
工 分 室	図 書 誌				6,693	7,710	9,798	8,409
	雑 誌				3,089	7,877	18,006	19,118
	計	393	1,731		9,782	15,587	27,804	27,527
計	図 書 誌				27,995	44,781	75,577	113,073
	雑 誌				17,122	47,042	90,915	102,090
	計	3,748	12,932		45,117	91,823	166,492	215,163

製本費・複写費等は雑誌に含む

画) これら共通経費によるもののほか、文部省より配賦される学生用図書購入費が昭和53年度では2千万円を越えている。

本館及び各分館・室について、教育・研究にあてられている図書購入費を示すと第5表のとおりである。

図書館維持費：図書館規模の変遷に伴う維持費を第6表に示すと、単純計算ではあるが、旧本館竣工後の昭和32年度(1,135千円)では前年度の約3倍となり、さらに現本館が新営された昭和48年度(28,720千円)は前年度の2.2倍というように増額されている。又53年度の内訳をみると人件費・光熱水料費が全維持費の64%を占めており、又、文部省の予算措置以外に維持費の約60%が、昭和53年度においても、本学に配賦された教育・研究費に直接依存しており、図書館運営計画に大きな問題をかかえていることを示している。

第6表 図 書 館 維 持 費

(単位：千円)

年度別 費目別	25	31	32	47	48	53
図 書 費		27	42	1,115	502	1,009
庁用器具費		61	220	207	835	1,180
用紙文具類		23	48	471	444	1,038
印刷物類	(物件費)	33	45	856	814	934
雑品費	180)	52	58	377	215	1,281
燃料費	(役務費)	21	38	50	64	88
製本費	133)	19	5	78	67	234
修繕費		23	36	41	195	340
通信運搬費		19	111	319	322	817
会議費	10	8	12	334	160	379
自動車借上費				38	44	64
施設維持費				291	1,673	3,612
人件費			401	4,932	6,486	17,354
光熱水料費		30	46	336	6,183	7,825
暖房負担費				149	594	1,122
ゼロックス				2,725	3,540	1,333
節約				445	1,003	683
旅費流用		53	58	80	80	80
その他			14		5,580	1,652
計	323	369	1,134	12,844	28,801	41,025

6. 業務の変遷

資料の受入業務：本館における図書・逐次刊行物の受入手続は、発足当時は会計係、さらに整理係と引継がれ一つの係のなかで他の図書館業務と兼ねて扱われてきたが、受入係として独立した専任の係となったのは昭和38年である。それ以降業務は整備されたが、簡素化、能率化を計ったものとして次のようなものがある。

図書原簿——発足当時より昭和32年度までは台帳に記入されていたが、それ以降は印刷カー

ド1枚を受入登録順に配列し原簿とした。更に昭和43年度からは物品請求及命令書を製本し図書原簿としている。

図書の押印——朱肉による蔵書印は昭和43年度より廃止し、スタンプ式の受入登録印のみとしたが、これも受入年度、登録番号、館名のみとし、登録月日は省いた。なお同時に押す位置も蔵書点検のさいの手間を考慮して、従来の表題紙の裏から表に変更した。

支払事務——昭和52年度より電算機に、支払費目（図書和・洋、雑誌和・洋等）、金額、支払先、数量を入力し、支出額の確認や図書館統計等に役立てている。

目録業務：図書の分類は昭和29年10月から全館「日本十進分類法」第6版を採用することにし、昭和37年度からは第7版に改訂した。目録についても昭和29年10月から「日本目録規則」1952年版を採用、昭和40年度からは1965年版に改訂した。目録カードの複製は、はじめ謄写印刷であったが、昭和43年8月からシュプリンターにより、昭和53年からゼロックスを導入して印刷のスピード化をはかり、一方、昭和44年度からは国立国会図書館印刷カードの購入によりこれをマスターカードとして複製を行うことになった。複製された目録カードは図書館の目録編成用のほか各研究室へも必要枚数を配布し、蔵書目録の全学的な整備に力をいれている。

本館備え付けの閲覧用カード目録は、和洋別の全学の分類目録と、著者・書名目録及び本館備え付け図書の書名目録と著者名目録である。「日本十進分類法」採用以前の図書については旧分類による分類目録及び書名目録がある。昭和45年11月からは事務の簡素化のために副分用カードの作成を中止したが、これは反面利用に一部不便をきたす結果となった。

印刷目録としては「熊本大学附属図書館増加図書目録」を昭和28年度から作成していたが、昭和36年度で中止となった。昭和43年度からは「指定図書目録」を作成している。雑誌目録としては「熊本大学学術雑誌総合目録和文・欧文篇」を昭和30年度に発行して以来「和文篇」「欧文篇」に分冊して数年毎に改訂を行なっている。

図書の閲覧・貸出：附属図書館備付図書の利用については、すでに発足当初の昭和24年9月1日付で「熊本大学附属図書館図書閲覧貸出仮規定」が定められたが、昭和26年12月14日の改正を経て、正式に規則化されたのは、昭和35年2月25日である。

その後若干の修正が加えられて現在適用されている。医学部分館においては「閲覧内規」（昭和38年7月1日）、薬学部分館においては「図書運用規程」（昭和30年10月26日）がそれぞれ学部教授会の議を経て定められている。

昭和30年度以降の貸出統計表を後述するが、本館においては昭和48年の新館開館以来、飛躍的に増加している。これは自由接架方式を採用したことと、図書館内の環境整備に細心の注意を払ったことによるものと思われる。

夜間開館については、本館では昭和35年度より前・後期の試験期に約1ヶ月間の夜間開館（平日21時まで、土曜日19時まで）を、又医学部分館では昭和38年度から常時（平日18時まで、土曜日17時まで）の夜間開館を実施してきたが、現在は本館、医学部分館共に後で述べるとおりの実施状況となっている。

参考業務：参考係は昭和35年6月新設された。参考図書室は昭和39年9月旧館1階応接室に参考図書をあつめてスタートした。その後手狭になったため昭和44年10月旧館3階会議室に移ったが、昭和48年の新館移転後は1階一般図書閲覧室のカウンター近くの一部分を参考図書コーナーとして低書架を配置して利用の便をはかっている。昭和45年度からは福井館長の尽力により参考図書充実のための学内予算措置がなされ、以来年々その成果をあげてきている。昭和40年度より新入生に対し「図書館利用の手引」を作成配布し、昭和41年度からは「図書館報」

第7表 文献複写統計（年度別）

館 別			年 度 別						
種別			40	41	42	43	44	45	46
ゼ ロ ッ ク ス	本 館	学 内 学 外			797 41	1,298 53	1,268 133	1,790 186	2,540 246
	医学部 分 館	学 内 学 外			3,783 317	4,520 295	3,046 437	1,254 546	1,085 751
	薬学部 分 館	学 内 学 外							258 41
リーダー・プリンター	本 館	学 内							
マイクロ・フィッシュ		学 内							
オフセット印刷		学 内 C C	22 41	152 61	155 52	113 49	61 45	63 48	25
コニファックス		学 内		11	4	3	3	1	3
エレファックス		学 内 学 外	93 107	157 28	2		3	2	
館 別			年 度 別						
種別			47	48	49	50	51	52	53
ゼ ロ ッ ク ス	本 館	学 内 学 外	3,521 261	7,558 418	6,536 569	5,437 633	3,179 626	2,132 613	2,130 738
	医学部 分 館	学 内 学 外	1,184 772	853 816	1,050 873	2,094 886	2,273 601	1,640 558	1,082 363
	薬学部 分 館	学 内 学 外	181 32	222 50	223 41	262 66	301 51	180 78	170 72
リーダー・プリンター	本 館	学 内		14	17	18	9	4	3
マイクロ・フィッシュ		学 内			1				2
オフセット印刷		学 内 C C	5						
コニファックス		学 内	1						
エレファックス		学 内 学 外							

C C : 化学関係欧文誌の Contents Service

を発行した。近年は文献複写業務が激増してきたが、今日の学問・研究に対応した諸種の図書館利用案内や文献検索、収集の援助等、図書館活動の眼目となるべき業務の使命を果す努力はますます強力に推し進められなければならないところである。

文献複写：昭和35年4月「熊本大学附属図書館文献複写取扱規則」を制定し、トーコープによる複写をはじめたが、まだわずかに館内の需要をみたす程度で、本格的な複写業務がはじまったのはエレファックス PC-301 型を導入し、ゲストレットナーによるオフセット印刷をはじめた昭和40年4月からである。さらに昭和40年12月にはコニファックスが導入されマイクロフィルム引伸複写も行なわれるようになった。昭和42年度からは本館および医学部分館にゼロックスが導入され、飛躍的な複写業務の能率化が実現した。昭和46年には薬学部分館にはユービックスが導入された。本館新築後の昭和48年11月にはマイクロフィッシュ撮影機が導入され自館でのマイクロ作成が可能となった。文献複写の件数は第7表の通りである。

第2節 図 書 館 資 料

1. 蔵 書 の 状 況

附属図書館の全蔵書数は、昭和24年発足時の193,588冊から昭和54年4月1日現在では688,948冊と累増している。年度別蔵書数の推移を第8表に示す。

年度別増加図書冊数は昭和41年度以降2万冊を越えるようになった。昭和54年4月現在の分類別蔵書数を図書および雑誌について示すとそれぞれ第9表、第10表の通りである。昭和54年

第8表 年度別蔵書数の推移

年度別 館別		24	25	26	27	28	29	30	31
本館	和	50,561	52,302	55,358	57,324	58,641	60,401	61,991	108,757
	洋	18,819	19,852	21,519	23,778	25,614	27,157	28,545	30,489
教部分学館	和	36,980	38,807	40,278	42,252	44,732	46,543	48,118	49,566
	洋	3,903	3,921	4,040	4,378	5,049	6,024	6,403	6,836
医分学部館	和	16,241	17,017	17,864	18,754	20,390	21,038	21,560	22,268
	洋	19,842	20,039	20,278	20,622	20,824	21,548	22,003	22,405
薬分学部館	和	6,412	6,715	6,819	6,885	6,869	6,904	6,933	6,950
	洋	4,756	4,762	4,828	4,881	4,917	4,950	4,963	5,366
工分学部室	和	18,836	19,485	20,056	20,633	20,894	21,727	22,283	22,979
	洋	17,238	17,270	17,685	17,880	18,076	18,349	18,578	18,851
小計	和	129,030	134,326	140,375	145,848	151,526	156,613	160,885	210,520
	洋	64,558	65,844	68,350	71,539	74,480	78,028	80,492	83,947
合 計		193,588	200,170	208,725	217,387	226,006	234,641	241,377	294,467

年度別		32	33	34	35	36	37	38	39
館別									
本館	和洋	112,610	116,586	118,803	178,116	183,423	187,393	194,609	201,201
		31,699	34,053	36,447	47,401	50,077	52,645	55,426	58,147
教育部分学館	和洋	51,185	52,930	54,283					
		7,461	7,856	8,355					
医学部館	和洋	23,720	24,365	25,950	27,505	29,400	30,646	31,841	33,671
		22,823	23,659	24,685	25,591	27,276	28,139	29,716	31,222
薬学部館	和洋	7,028	7,102	7,253	7,358	7,481	7,615	7,855	8,007
		5,385	5,523	5,641	5,667	5,903	6,046	6,187	6,262
工学部室	和洋	23,827	24,612	25,457	26,150	27,414	28,179	30,404	31,472
		19,148	19,406	19,786	19,996	20,649	20,903	21,396	21,764
小計	和洋	218,370	225,595	231,746	239,129	247,718	253,833	264,709	274,351
		86,516	90,497	94,914	98,655	103,905	107,733	112,725	117,395
合計		304,886	316,092	326,660	337,784	351,623	361,566	377,434	391,746
年度別		40	41	42	43	44	45	46	
館別									
本館	和洋	205,821	216,552	228,756	235,766	242,225	253,055	261,540	
		61,030	66,353	70,328	74,477	78,415	83,162	88,716	
教育部分学館	和洋								
医学部館	和洋	35,706	37,374	39,332	41,214	42,658	44,533	46,305	
		32,727	34,418	36,084	38,595	39,985	42,094	44,021	
薬学部館	和洋	8,183	8,374	8,606	8,799	9,110	9,264	9,363	
		6,421	6,552	6,725	7,008	7,305	7,632	7,847	
工学部室	和洋	33,273	35,427	38,267	40,960	43,256	45,777	47,939	
		22,625	23,550	24,523	25,874	26,814	28,133	29,059	
小計	和洋	282,983	297,727	314,961	326,739	337,249	343,117	365,147	
		122,803	130,873	137,660	145,954	152,519	160,483	169,643	
合計		405,786	428,600	452,621	472,693	489,768	503,600	534,790	
年度別		47	48	49	50	51	52	53	
館別									
本館	和洋	270,280	278,879	287,346	296,305	305,835	317,545	330,249	
		93,700	98,388	104,050	108,649	113,041	118,629	125,573	
教育部分学館	和洋								
医学部館	和洋	47,848	49,497	51,814	53,259	54,656	56,760	56,744	
		45,655	47,939	49,797	52,071	54,051	56,225	57,717	
薬学部館	和洋	9,677	10,106	10,241	10,412	10,585	10,685	10,986	
		8,253	8,640	8,925	9,301	9,590	9,804	10,129	

年度別 館別		47	48	49	50	51	52	53
工学 学部 部室	和	50,372	52,222	53,597	55,211	56,760	58,226	59,766
	洋	30,324	31,287	32,493	33,955	34,851	36,377	37,784
小 計	和	378,177	390,704	402,998	415,187	427,836	443,216	457,745
	洋	177,932	186,254	195,265	203,976	211,533	221,035	231,203
合 計		556,109	576,958	598,263	619,163	639,369	664,251	688,948

第9表 分類別蔵書数（図書）

分類別 館別		総 記	哲 学	歴 史	社 会 学	自 然 学	工 学	産 業	芸 術	語 学	文 学	合 計
本 館	和	72,133	23,527	36,003	60,099	51,413	9,878	5,362	12,133	10,957	48,744	330,249
	洋	5,814	11,398	6,666	23,318	38,444	2,411	601	1,897	10,012	25,012	125,573
医分 学部 部館	和	779	1,006	927	1,513	47,586	854	141	346	730	2,862	56,744
	洋	490	281	86	164	56,006	87	57	73	342	131	57,717
薬分 学部 部館	和	845	434	414	330	7,688	430	293	158	262	132	10,986
	洋	2,905		7	3	6,896	244	22	3	44	5	10,129
工分 学部 部室	和	4,147	1,003	1,082	1,259	12,523	37,177	381	721	873	600	59,766
	洋	5,427	343	592	180	7,627	22,356	216	295	265	483	37,784
計	和	77,904	25,970	38,426	63,201	119,210	48,339	6,177	13,358	12,822	52,338	457,745
	洋	14,636	12,022	7,351	23,665	108,973	25,098	896	2,268	10,663	25,631	231,203
合 計		92,540	37,992	45,777	86,866	228,183	73,437	7,073	15,626	23,485	77,969	688,948

第10表 分類別蔵書数（雑誌）

分類別 館別		総 記	哲 学	歴 史	社 会 学	自 然 学	工 学	産 業	芸 術	語 学	文 学	計
本 館	和	958	70	139	561	1,230	227	232	108	61	146	3,732
	洋	106	82	43	309	1,095	67	23	7	68	45	1,845
医分 学部 部館	和					873						873
	洋					1,260						1,260
薬分 学部 部館	和	2			6	157	40	9				214
	洋					158	38	15				211
工分 学部 部室	和			2	11	69	479	6	4			571
	洋			2	4	101	438	3				548
計	和	960	70	141	578	2,329	746	247	112	61	146	5,390
	洋	106	82	45	313	2,614	543	41	7	68	45	3,864
合 計		1,066	152	186	891	4,943	1,289	288	119	129	191	9,254

4月現在で所蔵雑誌の種類数は9,254を数え、昭和29年度の種類数のほぼ3.6倍となっている。

教養課程教育に直結する指定図書のうち昭和54年4月現在での配架冊数をあげると第11表のとおりである。

第11表 本館指定図書冊数

人文科学系列	827冊	保健体育関係	574冊
社会科学系列	2,739	総 合	78
自然科学系列	2,460	計	7,477
外国語関係	798		

2. 特殊文庫

現在本館に収蔵されている以下の特殊文庫群は何れも貴重な研究資料である。なお昭和37年6月には旧本館において、熊本大学貴重資料展示会が催され、ここに述べる文庫以外にも図書館所蔵の多くの貴重資料が展示された。

(1) 時習館文庫

時習館は第八代熊本藩主細川重賢によって宝暦4年（1754）熊本城二ノ丸に創立された藩学である。幕末には宋版「尚書正義」を刊行するなどの文化事業も行ない、創立当初からかなりの図書が収集されたと思われるが、明治初年閉鎖された時、その蔵本は多く散佚してしまいその一部が熊本師範学校に引継がれ当図書館に伝わった。漢籍は中国版を主にし和刻版も含むが、経、史、子、集にわたり、なかでも史類がもっとも多い。3,101点、熊本師範学校より保管転換。

(2) 柚原文庫

第五高等学校出身の柚原益樹氏旧蔵の漢籍。11年間の北京遊学の際収集された漢籍は万般にわたり、各種の基本図書が収蔵されているが、とくに道家関係で「正統道蔵」「道蔵輯要」「道蔵全書」などは、後年台湾で復刻されるまでは極めて入手困難な道蔵研究の根幹をなすものであった。2,943点、昭和32年3月購入。

(3) 落合文庫

五高教授のうち宮内省に入り大正天皇の侍従となった落合為誠（東郭）氏旧蔵の漢籍および国書。氏は明治、大正、昭和にかけて日本有数の漢詩人であったから蔵本も漢詩文が中心になっているが、経、史類はじめ系統的な集書がなされている。東京大学東洋学文献センターによる調査報告書（油印）が刊行されている。3,501点、昭和32年3月熊本大学期成会より寄贈。

(4) 平野文庫

五高卒業生平野芳邦氏（東大文学部東洋史学科在学中出征戦死）の記念に父芳州氏よりその蔵書を寄贈されたものである。宋、元、明の経済史関係の漢籍類。307点、昭和35年5月寄贈。

(5) 井上文庫

井上信一氏旧蔵の漢籍、国書及び近世史料。井上家は幕末熊本藩の勘定奉行であった。当時の家老クラスの教養を示す史料として興味あるものである。1,749点、昭和38年9月寄贈。

(6) 徳永家文書

菊池市隈府（旧菊池郡隈府町）の御山支配役徳永家旧蔵の地方史料，主として山方取締りに関する史料（江戸中期―後期）。142点，昭和26年4月寄贈。

(7) 松井文庫

八代市の松井明之氏旧蔵の近世藩政史料および典籍類。代々細川家の城代家老として豊後統治時代から明治初年までの史料は細川家の「北岡文庫文書」と相俟って肥後藩政史研究上貴重なものである。37,221点，昭和27年12月購入及び昭和32年3月寄贈。

(8) 藤本家文書

玉名郡長州町腹赤の村役人（庄屋）を勤めた藤本家旧蔵の村方史料（主として幕末―明治初期）。なかに明治初期の大浜港関係文書を含んでいる。416点，昭和35年8月寄託。

(9) 阿蘇家文書

阿蘇神社宮司阿蘇惟友氏旧蔵の古文書，平安中期から江戸末期にわたり，中世文書は南朝関係のものが多く，社領支配の実態を解明するために貴重な史料である。一紙文書および抄写の中世文書写しの分は「大日本古文書家わけ第十三」に収められている。1047点，昭和36年3月寄贈。

(10) 井手家文書

熊本市中島町の地方役人（惣庄屋，庄屋）を勤めた井手家旧蔵の村方史料（近世中―後期）都市近郊農村史料としてすぐれたものである。760点，昭和40年3月購入。

(11) 細川家北岡文庫

熊本藩主細川家に伝わった藩政史料。南北朝時代の細川頼之代から近世細川氏の初代とされる藤孝の丹後統治以後，豊前，豊後時代を経て寛永9年の肥後入国以来明治4年の廃藩置県にいたるまでの史料である。この膨大な史料は細川家の北岡旧邸内の蔵に架蔵されていたので「北岡文庫文書」とよばれているが，財団法人「永青文庫」の所有で，現在熊本大学が寄託をうけ本館に架蔵しているものである。藩政史料はいうに及ばず，国文学，有職故実等の文書は，その質量において全国有数のものである。43,867点，昭和41年6月寄託。

(12) 河端家文書

上益城郡益城町砥川の村役人（庄屋）を勤めた河端家旧蔵の土地関係文書（主として江戸後期―末期）120点，昭和42年1月購入。

(13) 西園寺家文書

上益城郡益城町砥川の村役人（庄屋）を勤めた西園寺家旧蔵の村方史料（江戸中期―明治初期）である。150点，昭和42年1月購入。

(14) 八雲文庫

明治24年11月から3年間第五高等学校の英語とラテン語の教師であった Lafcadio Hearn（小泉八雲）の作品，伝記，評論等。29点，昭和26年7月購入。

(15) 菅野文庫

菅野是正氏旧蔵の蘭書。幕末から明治初年にかけて医者を目指して長崎に留学した際収集されたもので、航海、砲術、化学書等。29点、昭和27年12月寄贈。

(16) ポーター文庫

大正5年10月から大正11年2月まで第五高等学校の英語教師であった William N. Porter の五高在職中の蔵書の一部。35点、昭和35年12月寄贈。

3. 図書館資料の運用

図書館資料の本館での館外貸出状況を示したのが第12表であるが、昭和30年度と昭和53年度を比較してみると学生への貸出冊数において2.9倍となっている。新本館が昭和48年に開館して以来、図書館資料は自由接架方式をとっているため、閲覧利用統計はないが、入館者統計を見ると、昭和53年度の年間入館者は281,593人で、年間開館日数261日、1日平均1,080人となる。黒髪北地区の学生総数（教養部・法文・教育学部）は約5,300人であるので、単純計算で、1日平均その2割が入館したことになる。この数字は推定ではあるが旧館当時の約10倍に相当するものである。新、旧館の建地の距離の差が約150mしかないことを考えると、その入館者数の差は全く施設、設備、環境の差、資料の運用法、ないしは、その充実によるものといわざるをえない。今後ともこの面でのより一層の充実を心すべきであろう。

第12表 本館貸出統計

利用者別 年度別	学 生		職 員	
	人 員	冊 数	人 員	冊 数
30	3,985	5,351	664	1,866
35	9,762	11,577	753	1,359
40	6,645	7,773	391	813
45	4,357	5,528	361	930
50	14,196	16,663	357	613
53	12,918	15,507	223	395

なお昭和48年度以降の月別入館者数をみると、試験期の9月、10月、2月が多いのは勿論であるが、年間平均して利用者がふえてきている。

現在本館1階の一般閲覧室には一般図書約24,000冊、参考図書約4,400冊、雑誌約70種が、2階の指定図書室には指定図書約7,500冊が開架されている。又2階の研究者閲覧室には各大学の紀要、学術雑誌及び英国議会資料を開架して研究者の利用に供するとともに、二次資料の収集・閲覧に努めている。館内は冷暖房が完備し、明るく、ゆったりと、楽しく利用できるよう配慮されている。

部門別の利用状況は第13表のとおりであるが、さらに有効活発な利用を期待するためには学生用図書の充実が今後の課題である。

第13表 本館貸出統計（昭和53年度）

利用者別 分類別	学 生		職 員	
	人 員	冊 数	人 員	冊 数
総 記	119	129	16	43
哲 学	913	1,034	27	41
歴 史	1,190	1,393	30	46
社 会 科 学	2,003	2,409	32	62
自 然 科 学	4,309	5,080	28	41
工 学・工 業	370	433	3	11
産 業	33	38	1	1
芸 術	351	429	8	12
語 学	388	444	12	16
文 学	3,242	4,118	66	122
計	12,918	15,507	223	395

時間外開館は、従来、前・後期の試験期についてのみそれぞれ約1ヶ月間、平日20時まで、土曜日17時まで開館し、その他の期間は、自由閲覧室のみを平日に20時まで開館してきた。昭和53年9月以降、時間外開館要員のための必要経費が文部省から予算配賦されることとなり、春季、夏期及び冬期の休業期間を除き、平日20時30分まで土曜日17時までの時間外開館を行っている。

1階のカウンター内にはゼロックスをおき、文献複写業務を行っている。

医学部分館の年度別館外貸出状況は第14表のとおりである。

第14表 医学部分館貸出統計

利用者別 年度別	学 生		職 員	
	人 員	冊 数	人 員	冊 数
30	0	0	2,337	5,839
35	0	0	1,520	3,220
40	221	255	2,496	4,954
45	1,029	1,230	1,944	3,930
50	351	419	1,004	1,949
53	1,709	2,478	3,881	9,001

昭和50年度の増改造後は、それまでの平日18時まで、土曜日17時までの時間外開館（夏期休業期間を除く。）のほか、平日20時までの自由閲覧室を開設してきたが、昭和53年9月以降、春季、夏期及び冬期の休業期間を除き、平日20時30分まで、土曜日16時30分までの時間外開館

第15表 薬学部分館貸出統計

利用者別 年度別	学 生		職 員	利用者別 年度別	学 生		職 員
	人 員	冊 数			人 員	冊 数	
30	1,352冊	1,003冊		45	2,290冊	156冊	
35	581	195		50	386	132	
40	556	866		53	188	69	

を実施している。

薬学部分館の年度別館外貸出状況は第15表のとおりである。

昭和44年度新築後の分館は冷暖房を設備し、全館開架方式で快適な図書館サービスが行なわれている。蔵書数は約21,000冊と少ないが、その90.6%を図書館に配架し、殊に化学関係図書の整備は、九州地区では類をみない優れたものである。従って学外からの利用者も少なくない。館外貸出を最低限に抑え高い利用効率を考慮している資料運用の方式も特有である。

本・分館（室）を通じて、研究室と図書館に保有（備付）されている図書の百分比（昭和53年度現在）を見ると、本館：46.4%（研究室）：53.6%（図書館）。医学部分館：54.6%（研）：45.4%（図），薬学部分館：9.4%（研）：90.6%（図），工学部分室：32.4%（研）：67.6%（図）である。この百分比の示すところは薬学部分館は別として、何れの館、室においてもかなりの図書が研究室に長期保管されていることを示すもので、およそ図書館の近代性を標示する共同利用効率の増進、重複購入制限、整理・管理等、管理運用面に問題を残しているものであるといえる。

第3節 将来への展望

附属図書館は発足以来30年の歳月の中で一面飛躍的に量的な伸びを示したが、今後は質的な向上をはかることが目下の急務となった。殊に、本館は近代図書館としての規模を整備した今日、学習図書館的機能のみならず、研究および専門図書館としての機能を発揮できるよう諸設備の整備、充実への配慮がなされなければならない。即ち蔵書の充実、学術情報活動のより一層の活発化、各学部共通分野の文献収集を目ざした教官閲覧室の充実拡大、視聴覚室の活用と、視聴覚資料の整備、さらに、図書館資料運用の面では研究室での図書の長期保管の改正も考慮されなければならない。これらのためには附属図書館の管理機構上に指摘される諸問題、即ち定員増の問題、維持費の適正化と図書館資料費の増額、職員の研修と質的向上を推進すべきである。又従来未解決のままとなっている工学部分室統合の問題も事務機構についての整備は行なわれたが、なお、将来に持ち越された。本館、医学部分館、薬学部分館が一応の完成をみた今日、閲覧室も書庫も不十分な施設となった工学部分室は早急に最善の改善方策がとられねばならない。

附表 歴代役職者名簿

館長・分館・分室長

区分 年	館長	教育学部分館長	医学部分館長	薬学部分館長	工学部分(館)室長
24			佐々木 宗 一 7.31		
25	原 田 敏 明 2.21	瀬 古 確 6.7	尾 崎 正 道 3.24	野々村 進 6.7	向 井 参之充 6.7

年	区分	館 長	教育学部分館長	医学部分館長	薬学部分館長	工学部分(館)室長
26		小 山 準 二 6.1			岡 野 定 輔 8.1	
27			水 野 武 夫 6.7			堀 田 秀 次 6.7
28		松 本 唯 一 8.1	(35.6. 廃館)		小 山 鷹 二 7.1	
29						竹 井 素 行 6.7
30		原 田 敏 明 8.1				
32		石 坂 正 蔵 8.1		忽 那 将 愛 11.30		
33						清 田 堅 吉 6.7
34					占 部 即 明 7.1	
36		大久保 武 男 8.1		入鹿山 且 朗 4.1		
37						堀 一 夫 6.7
38					村 田 敏 郎 4.1	
40		村 上 唯 雄 8.1				
41					加 瀬 佳 年 4.1	兼 重 修 6.7
42		松 本 雅 明 8.1		田 中 正 三 4.1		
44		福 井 武 弘 5.1				
45						立 川 逸 郎 6.7
46		(事務取扱) 黒 田 正 巳 4.1		武 内 忠 男 4.1	柴 田 元 雄 5.16	
		加 瀬 佳 年 5.16				
47						桃 崎 順二郎 6.7
48				内 田 櫨 男 4.1		
50		内 田 櫨 男 5.16		藤 本 十四秋 5.16	米 田 文 郎 5.16	
51						川 崎 獺 雄 6.7
52		岩 本 政 教 5.16				
53						安河内 一 夫 6.7
54		一番ヶ瀬 尚 5.16			児 島 昭 次 5.16	

事 務 長

倉岡堯昌 24.7.1～26.3.31, 吉川 尚 26.4.1～39.3.31, 小山恵章 39.4.1～42.3.31, 坂
本龍蔵 42.4.1～48.4.1, 千羽親晴 48.4.1～49.6.6, 山口正人 49.6.7～53.3.31, 葉室森
男 53.4.1～54.3.31

事 務 部 長

河野繁蔵 54.4.1～

整 理 課 長

葉室森男 54.4.1～

閲 覧 課 長

大宅敏之 54.4.1～

係 長

本 館					医 学 部 分 館		薬学部分館	工学部分館	教育学部分館
庶務係	会計係	司書係			図書係		図書係	図書係	図書係
相部 国彦 24. 7. 1	(併任) 国彦 相部 7. 1	包坂 幸夫 24. 7. 1 (事務取扱) 吉川 尚 27. 4. 1			宮川 喬次 24. 7. 1 小川 一 25. 12. 5 瀧本 龍水 27. 4. 16		村田 正利 24. 7. 1 仲宗根 勇 25. 3. 31 田上 時義 27. 8. 1	米村 隆 24. 7. 1	田尻 勝 25. 12. 5
	29. 9. 30				田上 時義 29. 9. 4		米村 隆 29. 10. 1 田辺 大介 33. 4. 20	田尻 勝 29. 10. 1	瀧本 龍水 29. 10. 1
管理係		整理係	運用係	閲覧係	参考係			工学部分室 図書係	
柳辺 寛 29. 9. 4		相部 国彦 29. 10. 1	田辺 大介 29. 9. 4 米村 隆 33. 4. 20	田上 時義 35. 6. 7	米村 隆 35. 6. 7			田尻 勝 35. 6. 7	
村上 敏行 36. 6. 1		瀧本 龍水 35. 6. 7							
総務係		受入係	目録係			整理係	運用係		
村上 敏行 38. 5. 1 早田 秋男 39. 12. 1		瀧本 龍水 38. 5. 1 田尻 勝 41. 4. 1 竹熊 武久 43. 4. 1	渡辺 清人 38. 5. 1		相部 国彦 38. 5. 1 米村 隆 39. 8. 1	石崎 高造 38. 5. 1			
森川 渡 44. 3. 1 上村 泰三 46. 5. 16		(併任) 武久 竹熊 45. 6. 16 草野 隆夫 47. 4. 1	(併任) 武久 川口 恭子 47. 4. 1	川口 恭子 43. 4. 1	渡辺 清人 45. 6. 16 (併任) 清人 渡辺 47. 4. 1	井手 伸雄 41. 4. 1 草野 隆夫 44. 6. 1 (併任) 清人 渡辺 47. 4. 1	石崎 高造 41. 4. 1	田辺 大介 41. 4. 1	

本 館					医 学 部 分 館			薬学部分館	工学部分館	教育学部分館
総務係	受入係	日録係	閲覧係	参考係	整理係	運 用 係	図 書 係	工学部分室 図 書 係		
村山 強喜 51.11. 1	渡辺 清人 49. 8. 1	矢野 正博 53. 4. 1	竹熊 武久 49. 8. 1		田辺 大介 49. 8. 1	(併任) 大介 田辺 大介 49. 8. 1	田尻 英雄 49. 8. 1	石崎 高造 49. 8. 1		
					田尻 英雄 52. 4. 1 吉田 哲広 53.11. 1	(併任) 英雄 田尻 大介 52. 4. 1 田尻 英雄 53.11. 1	田辺 大介 52. 4. 1	草野 隆夫 53. 4. 1 54. 3. 31		
理 課					閱 覧 課					
整 務 係	受入係	日 録 係	閱 覧 係	参 考 係	整 理 係	運 用 係	図 書 係	工学部分室 図 書 係	教育学部分館	
橋 本 治 喜 54. 4. 1	渡辺 清人 54. 4. 1	矢野 正博 54. 4. 1	竹熊 武久 54. 4. 1	川口 恭子 54. 4. 1	草野 隆夫 54. 4. 1					